

平成21年度 事務事業シート(一般事務事業)

継続事業(期限を定めず行う事業)

事務事業名	06臨港道路の維持管理	コード	担当課	港営部港湾管理事務所
		5082306	連携担当課	(企画調整室)事業担当 (建設部)工事課、港湾工事事務所

1 事務事業の目的・目標(PLAN)

政策の体系	政策名	5安全な港			
	基本施策名	08施設の安全性・信頼性の向上			
	個別施策名	23港湾施設の機能を維持・強化する			
事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)		臨港道路を巡視することにより、損傷した箇所があれば速やかに応急措置を行います。			
開始年度		昭和 26 年度			
根拠法令・要綱等					
事務事業の目的	対象 (誰を、何を)	臨港道路			
	意図 (どういう状態にしたいのか)	良好に維持することにより、通行車両の安全かつ快適な走行を確保する			
活動指標	事務事業の実績を測る指標	単位	算出方法(式)・指標設定の考え方		最終[中間]目標 (年度・目標値)
	補修箇所	回	必要に応じた各年度の合計数		平成 24 年度 -
	巡視日数	日	臨港道路の状況等を確認した日数 (毎週、1週間で臨港道路全て(総延長約150km)に対し実施)		平成 24 年度 開庁日数
成果指標	事務事業の目的の成果を測る指標	単位	算出方法(式)・指標設定の考え方		最終[中間]目標 (年度・目標値)
	道路損傷等に起因する事故件数	件	必要に応じた各年度の合計数		平成 24 年度 0
					平成 年度

2 事務事業の実施(DO)

事務事業の実施内容 <平成20年度> と 平成21年度以降、シート作成時点までに変更した 実施内容(ある場合)  (内容は具体的に)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・巡視・点検</li> <li>・損傷箇所の補修</li> <li>・街路樹剪定</li> <li>・暴走族追放対策(暴走行為の特に多い飛島ふ頭・木場金岡ふ頭・弥富ふ頭・鍋田ふ頭にて実施)</li> </ul>				
項目		単位	平成19年度 (決算額)	平成20年度 (決算見込額)	平成21年度 (予算額)	
事業費 a		千円	6,084	5,817	5,500	
人件費 b		千円	14,742	14,744	14,744	
職員数	正規職員	人	0.80	0.80	0.80	
	嘱託職員	人	2.00	2.00	2.00	
	合計	人	2.80	2.80	2.80	
総事業費 a+b=c		千円	20,826	20,561	20,244	
活動指標	補修箇所	目標	回	-	-	-
		実績 d		87	75	
	単位コスト	千円(c/d)	239	274		
	巡視日数	目標	日	245	243	242
実績 e			232	230		
単位コスト		千円(c/e)	90	89		
成果指標	道路損傷等に起因する事故件数	目標	件	0	0	0
		実績		1	1	
	達成率	%	-	-		
	目標					
実績						
達成率	%					
備考(補足説明等)						

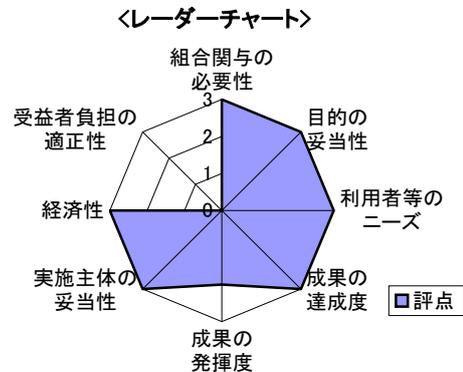
### 3 事務事業の検証<平成20年度実績>(CHECK)

視点	必要性	※各観点ごとに、該当する項目の点数(3~1)を評点欄に記入してください。法令や県の条例等により実施が義務付けられた事務事業については、全ての観点到点数0を記入してください。	
観点	評点	点数	
組合 関与の 必要性	3	3	本組合が関与すべき事務事業である。
		2	本組合が関与すべき必要性が薄れてきている。
		1	本組合が関与すべき必要性が薄く、事務事業の存続について検討すべきである。
目的の 妥当性	3	3	事務事業の意図は個別施策の成果に結びついており、対象の設定も妥当である。
		2	他港湾の水準や民間競合等の観点から、対象や意図の見直しを検討する必要がある。
		1	事務事業の意図と個別施策の成果との結びつきが低下している。
利用者 等の ニーズ	3	3	ニーズの高い事務事業である。
		2	ニーズに変化がみられ、事務事業の見直しを検討する必要がある。
		1	ニーズが低下している、あるいは、ニーズと比較してサービスの供給が過剰又は不足となっている。

視点	有効性	※各観点ごとに、該当する項目の点数(3~1)を評点欄に記入してください。	
観点	評点	点数	
成果の 達成度	3	3	成果の目標を達成している。
		2	成果の目標を達成していないが、概ね計画どおりに推移している。
		1	成果の目標を達成しておらず、進捗が遅れている。
成果の 発揮度	2	3	事務事業の実施内容に見合った成果が得られている。
		2	事務事業の実施内容を見直すことで、さらなる成果の向上が期待できる。
		1	現在の成果は十分とは言えず、事務事業を継続しても、これ以上、成果の向上は期待できない。

視点	効率性	※各観点ごとに、該当する項目の点数(3~1)を評点欄に記入してください。「受益者負担の適正性」については、事務事業の性質上、該当しない場合は点数0を記入してください。	
観点	評点	点数	
実施 主体の 妥当性	3	3	民間など他の実施主体を活用している、あるいは、本組合が主体となって実施する必要がある。
		2	現段階では、本組合が主体的に実施する必要がある。
		1	他の実施主体の活用により、さらなる効率化は可能である。
経済性	3	3	継続的にコストの削減を進めており、これ以上コストを下げる余地がない。
		2	電子化等の事務改善、事業手法、委託先、契約方法の見直し等により、さらなるコスト削減が期待できる。
		1	単位コストが悪化しており、早急にコスト改善を図る必要がある。
受益者 負担の 適正性	0	3	受益者の負担割合は適正である。
		2	社会経済情勢や他団体の類似事業との比較から判断して、負担割合を見直す必要がある。
		1	社会経済情勢や他団体の類似事業との比較から判断して、相応の受益者負担を求める必要がある。

総合所見	※必要性、有効性、効率性の検証結果から課題・問題点等を整理します。	
事務事業の改善・見直しの余地	<input checked="" type="checkbox"/> 多い	<input type="checkbox"/> 少ない
※該当する項目をチェックします。		
(所見欄) ※判断理由、課題・問題点等を記入します。		
臨港道路の維持管理について、轍・陥没補修、樹木伐採、暴走族対策等道路に関連する苦情・陳情への対応や交通事故処理等、業務量は極めて多いものであります。		
一方、臨港道路に関する工事については、応急措置業務、緊急工事、単独又は補助工事と段階的な構造となっており、複数の課所にまたがっています。また、財産管理は、管財課にありながら維持管理を当事務所に委ねられており、これらが臨港道路の維持管理業務を一層、煩雑にしています。そのため、苦情・陳情を受けた課所がそれを完結するシステムづくりが必要であります。		



### 4 事務事業の改善(ACTION)

事務事業の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 終了	<input type="checkbox"/> 休廃止			
取組の方向性	伸 <input checked="" type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 加速	<input type="checkbox"/> 減速	<input type="checkbox"/> 延
コスト削減裁量余地	<input type="checkbox"/> 有	<input checked="" type="checkbox"/> 無				

今後の改善策等(現実的かつ具体的に) ※個別施策管理シートの判定結果を踏まえ今後の改善策や取組方針を記述します。

- 臨港道路の維持管理については、次のような業務を一括して行う組織づくりが必要と考えています。
- ①本組合が所管する道路、橋りょう及び附帯施設(以下「道路等」という。)の維持管理
  - ②維持管理を行ううえで必要な工事及び応急処置業務
  - ③道路等に係る使用の許可、使用料の徴収
  - ④道路等に係る施設の点検、巡視、一般職員・住民等からの通報の受理
  - ⑤道路等及びこれらの附属物の維持補修